

【研究ノート】

# 進化するびわこ・くさつキャンパス（誕生から現在まで）

史資料センターオフィス 久保田 謙次

## 目 次

- 第一章 びわこ・くさつキャンパスはどのように誕生したかーキャンパス開設の構想と計画  
     ―第四次長期計画と「二一世紀の立命館学園構想」―
- 第二章 理工学部 of 拡充移転
- 第三章 経済学部・経営学部の新展開―第五次長期計画の時代―
- 第四章 二〇〇〇年代の新学部・新研究科の開設
- 第五章 二〇一〇年代の新たな展開―R二〇二〇前半期計画から後半期計画へ―
- 第六章 クラブ活動の変遷
- 第七章 二〇一〇年代後期の地域連携
- 第八章 キャンパスこぼれ話あれこれ
- 第九章 BKCに関する資料

付…資料「数字で見るBKCの変遷」

二〇一九（平成三一・令和元）年、びわこ・くさつキャンパス（BKC）は一九八九（平成元）年の構想・計画から三〇年、一九九四年四月の開設から二五年となった。日々進化するキャンパスはどのような発展を遂げてきたのだろうか。学部や大学院研究科の開設、教育・研究事業や学生の諸活動の展開、また地域との連携など、その進化の歴史を跡付ける。

## 第一章 びわこ・くさつキャンパスはどのように誕生したかーキャンパス開設の構想と計画

### ―第四次長期計画と「二一世紀の立命館学園構想」―

#### 第一節 一九八九年三月の答申「二一世紀の立命館学園構想」

国際関係学部や情報工学科の設置により第三次長期計画をほぼ達成した一九八八年四月、二一世紀の立命館創造に向けて「二一世紀学園構想委員会」が設置された。委員会は二一世紀の学園を展望し第四次長期計画の策定をめざす、「二一世紀の立命館学園構想」を翌一九八九年三月に答申した。

答申は、「社会科学系再編・拡充」「新キャンパス・理工拡充」「国際化」「財政」の四つのプロジェクトによる具体的な提案がなされ、そのなかで、急速な科学技術の発展に即応した理工学部の拡充と、学園規模問題にも関わり二、五〇〇名程度の学生数の現状から四、〇〇〇～四、五〇〇名規模の学生数を目指し、財政的自

立を図るべく、新たなキャンパスに拡充移転することが提起された。

この答申に基づき、理工学部 of 拡充移転が第四次長期計画の基幹事業の一つとなった。

## 第二節 候補地の選定

衣笠キャンパスでは法規制により新たな理工学部の展開が見込めない中、一九八九年夏、いくつか検討していた候補地のなかで、滋賀県草津市が浮上した。

候補地の条件として、確保できる校地面積、造成完了の見通し、交通アクセス、受入れ先（自治体）の協力、地域環境などが最もふさわしいとの判断から、同年九月、滋賀県草津市を選定した。選定を受けて理工学部教授会も九月一二日に移転決議を行った。

移転先の決定により、一九八九年一月二日に滋賀県、草津市との間で協力に関する覚書を調印した。この事業は校地を取得するに必要な多大な補助を滋賀県及び草津市から受けるなど、それまでに例を見ない大型の公私協力事業となった。

この覚書のなかで、理工学部・理工学研究科の拡充の内容、すなわち学部の理学系を三〜四学科、入学定員二〇〇〜二四〇人、工学系六〜七学科、入学定員八〇〇〜九六〇人、理工学研究科の入学定員を約三〇〇人とし、その拡充に必要な校地面積三四ヘクタールを確保するため、最終的に五五万五、〇〇〇平方メートル余を取得することとなった。

### 第三節 拡充移転構想の策定

一九八九年一月、びわこキャンパス計画委員会を設置し、続いて一九九〇年四月、理工学部拡充移転推進委員会が設置され具体化が進められた。

基本的な考え方として、新たな科学技術の発展と社会の要請する課題に高等教育機関として貢献すること、情報・物質・環境のヒューマニスティック・サイエンス・テクノロジーの発展をめざすこと、そのために数学科物理系・応用化学系・電気電子系・機械システム系・建設環境系・情報系の六学系とし、学部学生四、〇〇〇名、大学院学生一、〇〇〇名、合計五、〇〇〇名を目指すこととした。

そして再編拡充は二段階で実施するものとし、第一段階は一九九四年度に生物工学科、環境システム工学科を設置し、情報工学科を情報学科に再編すること。第二段階として一九九六年度に機械システム系と電気電子系の再編を行うこととした。

### 第四節 キャンパスの建設

キャンパスの予定地は滋賀県草津市野路町の丘陵地。滋賀県が整備してきたびわこ文化公園都市の東側に位置し、滋賀県立図書館・県立近代美術館や滋賀医科大学、龍谷大学瀬田キャンパスなどが集まっていた。

土地の造成は一九九一年一月に始まり、翌一九九二年九月に並行して建築工事が始まった。そして二年二カ月余、九三年の一月末に建築工事が完了した。

主な建物・施設は、

- ① コアステーション  
管理運営部門、事務部門が入ったほか、地下にはBKC全体に供給する電気設備などインフラが収容された。
- ② ウエストウイング  
地上七階建ての研究棟で、数学物理系・情報系・電気電子系が収容された。
- ③ イーストウイング  
ウエストウイングと対称となる七階建て、応用化学系・機械システム系・建設環境系が入った。
- ④ メディアセンター  
理工系の図書館棟で、雑誌・新聞閲覧室は二四時間利用できる施設となった。
- ⑤ ユニオンスクエア  
食堂・生協関連施設、学生施設
- ⑥ プリズムハウス  
大教室、情報関係施設
- ⑦ フォレストハウス  
中教室・小教室棟
- ⑧ BKCジム  
体育館
- ⑨ エクセル1  
電気電子系・情報系・数学物理系の研究実験施設
- ⑩ エクセル2  
応用化学系・生物地球科学研究室、理工学研究所
- ⑪ エクセル3  
建設環境系・機械システム系の研究実験施設
- ⑫ レクセル  
放射線研究施設
- ⑬ ワークショッププラザ  
機械実験棟、工作センター
- ⑭ セル  
土木特殊実験棟
- ⑮ 音楽練習場

## ⑩ 実験排水処理施設

コアステーション、ウエストウイング、イーストウイング、プリズムハウス、フォレストハウスの名称は学生などからの公募で決まり、建物以外の中央広場をセントラルサーカス、正門からの導入路をフロンティアアベニュー、歩行者道路をキャンパスプロムナードとする名称も公募によって命名された。

グラウンドであるクインスタジアムの地下には、造成に伴い七世紀頃の製鉄遺跡「木瓜原遺跡」が発見され、現状保存がされた。出土品の一部はコアステーションで展示されている。

キャンパスの名称は、当初びわこキャンパスと仮称してきたが、一九九一年七月の起工式以降「びわこ・くさつキャンパス」と仮称、一九九三年一月一七日の常任理事会で正式に「びわこ・くさつキャンパス」と決定した。

そして一九九四年三月二六日、「立命館大学びわこ・くさつキャンパス開学式典」が挙行された。



BKC（1994年4月）の外観







## 第二章 理工学部の拡充移転

### 第一節 移転

学部の移転には、様々な対応が必要となった。教学上は後期試験を前倒しし、一二月から三月まで移転作業が続いた。特に実験設備・機器は新規に調達するものもあったが、衣笠キャンパスから移設するものが相対的な数量になり、精度も維持しながら早期に使用できるようにしなければならなかった。研究を中断することと可能な限り避けながらの移転作業であった。

学生は住居の確保が必要となり、生活協同組合やクレオテックなどの協力によりアパートやマンションなどの住まいが新たに開発され提供された。

通学の手段は、最寄り駅としてJR瀬田駅と草津駅の間に新駅を設置し、駅からキャンパスまでバス路線を走らせることで進めていたが新駅の設置が開学に間に合わず、草津駅近くから直行バスを走らせた。南草津駅が開業したのは、九月四日のことであった。

### 第二節 新たな理工学部・理工学研究科の開設

開学式典で大南正瑛総長は、「人と地球にやさしい『ヒューマニステイック・サイエンス・テクノロジ』の発展と、意欲にあふれる学生達が思考力と創造力を伸ばし、あらゆる分野でリーダーシップを発揮することをめざして」新キャンパスを発展させていくことを表明した。

一九九四年四月からの理工学部再編拡充第一段階は、生物工学科（入学定員八〇名）、環境システム工学科（入学定員九〇名）、情報学科（情報工学科を廃止し新たに入学定員二六〇名）を設置し、これまでの入学定員四八〇名を七六〇名、臨時定員三五〇名を加えると一、一一〇名の学部となった。これにより学部の編成は、数学物理系に数学物理学科、応用化学系に化学科・生物工学科、電気電子系に電気電子工学科、機械システム系に機械工学科、建設環境系に土木工学科・環境システム工学科、情報系の情報学科の六学系八学科となった。

大学院はこれまで各学科の上に前期課程を積み上げる方式であったが、七専攻を四専攻に再編し、数理科学専攻・物質理工学専攻・環境社会工学専攻・情報システム学専攻となった。入学定員も一二五名から四専攻で五〇〇名と四倍に拡充した。

理工学部拡充の第二段階は、一九九六年四月であった。

機械システム系を再編しロボティクス学科（入学定員一〇〇名）、電気電子系を再編して、光工学科（入学定員一〇〇名）を新設し、一〇学科となった。

この結果、入学定員九六〇名、臨時定員を加え一、三二〇名になった。

第一段階で前期課程を再編した大学院は後期課程を一九九八年四月からこれまでの七専攻から総合理工学専攻の一専攻に再編した。入学定員七専攻計一六名から一専攻七五名への再編である。

これらの理工学部・大学院改革は、学部学生の半数を前期課程に進学させ、より高度な科学技術教育を修得すること、また後期課程はこれまでの研究者養成から、加えて高度技術者養成に應える目的をもったもの

であった。

### 第三節 BKC開設・理工学部拡充移転と産学官連携

一九九一年一〇月、第四次長期計画寄付政策―プロジェクト六〇―が決定・発足した。プロジェクトは、社会的ネットワークの構築を図り、研究センターを設置し、産学官交流事業を推進することを目指した。

理工学部の拡充移転事業は、社会と大学との教育研究資源を共同研究や受託研究などを通して、新たな質の教育研究事業の展開を図ることとなった。

具体的な展開として、一九九四年四月移転と同時に総合理工学研究機構を設置し、ロボティクス・FA研究センター、超高速計算・ソフトウェア研究センター、電子技術研究センター、材料・生産技術研究センター、環境総合研究センター、建設マネジメント研究センターの六研究組織が設立された。これらの研究センターは、永続的に設置されたものではなく、科学技術の急速な発展に即応し当初から五年をメドに改編されていくことを前提にした点で、これまでの研究組織とその性格を異にしていた。

これらの研究を推進する施設として、

一九九四年一二月、ロボティクス・FA研究センター

一九九六年四月、小型放射光施設「SRセンター」

一九九六年一二月、産学連携ラボラトリ

一九九七年六月、立命館大学ハイテクリサーチセンター

この施設の開設により一帯を「テクノコンプレクス」とした。

一九九八年四月、学術フロンティア共同研究センター

が開設され、学部・研究科の教育研究のみならず、産学官の研究事業としても役割を果たした。

#### 第四節 開設期の地域との連携・交流

九四年度には開学記念公開講座「琵琶湖地域の歴史と文化」を四月から六月にかけて、また立命館びわこ講座「現代科学技術入門」が七回にわたり地域の方々を対象に開講され多数の市民が受講した。またキャンパスや木瓜原遺跡の見学会も開催した。

学生の交流活動も活発になり、アメリカンフットボールを通じての市民との交流、学生の草津宿場まつりへの参加、地域の子供との交流が続いた。

開学祭「大学と市民でつくりあげる祭り」には学生・市民合わせて一万五、〇〇〇名が参加した。

衣笠とBK Cを結ぶ交流もキャンパス建設中の一九九二年一月から「ナイトハイク」を始め、翌一九九三年六月にはアメリカン大学の留学生やBK Cの建設に携わった熊谷組からも参加し、一〇年にわたり実施した。地域の人々も応援し到着時に食事を提供するなど交流を深めた。

### 第三章 経済学部・経営学部の新展開―第五次長期計画の時代―

#### 第一節 経済学部・経営学部の移転構想

びわこ・くさつキャンパスが開設された一九九四年の一〇月、答申「二十一世紀立命館学園」をもとに第五次長期計画を策定し、推進することとなった。

事業計画は、①BKCへの経済・経営学部の移転・新展開、②衣笠キャンパスの新展開、③新大学（APU）の創設、であった。

この課題が経済学部・経営学部二学部のBKCへの新展開となった。

衣笠キャンパスは理工学部の移転に伴い政策科学部が開設され、学生の登校率の向上ともあいまって、キャンパスの狭隘化はますます進み、その環境改善は必ずしも実現していなかった。

こうした中から、BKCにおいて人文・社会系学部と理工学部の教学を融合するキャンパス構想が生まれた。

一九九四年一〇月、「衣笠キャンパス・BKCの高度化検討委員会」が設置され、新しい教学システムの検討が具体化された。

移転対象学部の議論は全学に及んだが、一九九五年三月に経営学部が、同四月に経済学部が学部改革と移転を決定した。

## 第二節 BKCの高度化構想

一九九五年八月に「BKC高度化・経済・経営両学部教学改革推進本部」が設置され、翌年四月に「BKC高度化基本構想案―経済・経営両学部の新展開を中心として―」が提起された。経済学部・経営学部の新たな学部教学の展開を進めるとともに、更に理工学部との教学と結合した教育システム「BKCインスティテュート」が構想された。

単なる移転ではなく、経済学部、経営学部それぞれの、そして理工学部を含めた三学部の高度化・新展開が図られることとなったのである。

## 第三節 新展開の新たな施設

新展開に伴い、一九九八年三月に次の施設が竣工した。

- ① アクロスウイング……地下一階地上七階の総合学術情報研究棟で、経済・経営両学部の教員研究室、大学院共同研究室、マルチメディアルーム、社会科学系の図書館施設メディアライブラリーなど
- ② アドセミナリオ……地上四階建てで、一階に経済・経営学部の行政施設、二階以上に演習・外国語教室など
- ③ コラーニングハウス……地上四階の教室棟
- ④ リンクスクエア……一階に食堂やコンビニなどの生協施設、また二階に学生施設
- ⑤ アスリートジム……トレーニング施設

⑥ アクト  $\alpha$  …… 学生サークル施設

⑦ アクト  $\beta$  …… 音楽系練習施設

そのほか、ラウンジ・コミュニティ、リブ・スペース、ビュートストリート、ビーイングスクエア、レストガーデン、テクノアクセスなど。





BKC（1998年4月）の外観

キャンパス配置図（1998 年 4 月）と主な建物

#### 第四節 教学の新たな展開

一九九八年四月一八日、「びわこ・くさつキャンパス新展開記念式典」が挙行され、大南総長は新展開の特徴について、「第一に、文理総合インスティテュートという新しい文理融合型の教育・研究システムを導入すること。第二に、経済・経営二学部の教育・研究の抜本的改革を行うこと。第三に、外国語・情報メディアの教育・学習システムを抜本的に改革すること。第四に、BKC社系研究機構のもとに経営戦略研究センター、ファイナンス研究センター、社会システム研究所を設置し共同研究を促進すること」と述べた。

#### 《文理総合インスティテュート》

特徴的な三学部共同の教学システムである「文理総合インスティテュート」は三つのインスティテュートから構成された。

「ファイナンス・インスティテュート」は、世界を舞台に活躍する金融のプロを養成することを目的とし、経済学部と経営学部、理工学部の三学部の学生がそれぞれの学部に在籍をしながら履修するプログラムとした。

「環境・デザイン・インスティテュート」は、新しい環境・デザインを創造する人材を養成するプログラムで、三学部の学生が学修するプログラムであった。

「サービス・マネジメント・インスティテュート」は、スポーツや観光、健康産業のニューリーダーを養成するプログラムで、経済・経営二学部で運用された。

インスティテュートの教育の推進と国際経済や国際金融の研究のため、経営戦略研究センターとファイナンス研究センターを設置した。

### 《学部改革》

学部独自の改革では、前年度から新コース制を実施し、経済学部は経済戦略コースと国際経済協力コース、ヒューマン・エコノミー・コースを開設した。

経営学部も前年度からコース制改革を実施、国際経営コースと経営戦略コース、会計・経営システムコースを開設した。

### 《夜間主コース》

経済学部・経営学部は一九九八年四月にBK Cに移ったが、夜間主コースは引き続き衣笠で授業を行った。翌九九年四月より新入生のみBK Cで授業を開始し、二回生以上は引き続き衣笠キャンパスで授業を行った。全回生の授業が実施されたのは二〇〇二年四月からであった。しかし、夜間主コースの入学者の減少は経済・経営学部も例外ではなく、二〇〇四年四月には全学部の夜間主コースの学生募集が停止となった。

### 《地域との交流・連携》

地域との交流・連携では、草津商工会議所の「学園都市文化研究クラブ」の研究事業に参加、二〇〇三年

には草津市と連携協力の協定を結び、産業振興、教育・文化・スポーツ振興、まちづくりなど様々な分野で連携した。

## 第五節 新たな研究施設

二〇〇〇年四月、ローム記念館が開設した。ローム株式会社の全面的な支援により、大規模集積回路のデザインアーキテクチャーと回路設計に関する教育研究の高度化を図る拠点となった。

二〇〇二年四月には、マイクロシステムセンターが開設。文部科学省の「オープン・リサーチ・センター整備事業」の採択を受け、TOWA株式会社の支援によりマイクロ・ナノテクノロジーの発展をめざす拠点とした。

二〇〇四年一〇月、テクノコンプレクスの一角に「立命館大学BKCインキュベータ」が開設した。これは、独立行政法人中小企業基盤整備機構近畿本部が滋賀県・草津市の要請を受けて開設した施設である。立命館大学と産官連携強化をはかり、地域産業の技術の高度化、新事業の創設・育成を目的とし、起業家のため賃貸施設を提供した。

## 第四章 二〇〇〇年代の新学部・新研究科の開設

二〇〇〇年四月、立命館は大分県別府市に立命館アジア太平洋大学を開学した。その開学式典は、同時に立命館創始一三〇年・学園創立一〇〇周年記念式典として挙行了た。

学園は二〇〇一年九月、「新世紀学園構想第一次プラン」を発表し、大学院政策の展開と独立・専門職大学院の開設、研究政策の強化、情報理工学部の新設とそれに伴う理工学部の再編の三点の柱を掲げ、京都法政学校創立から一〇〇年を経て新たな二一世紀のスタートを切った。

## 第一節 二〇〇四年度、情報理工学部の設置と理工学部の改革―BK C一〇周年―

① 二〇〇四年四月、情報分野の教育・研究を強化するため、情報学科を理工学部から独立させ、情報理工学部を設置した。これまで入学定員は四五〇名であったが、情報システム学科（入学定員一三五名）、情報コミュニケーション学科（同一三五名）、メディア情報学科（同一三五名）、知能情報学科（同一三五名）、生命情報学科（同六〇名）の五学科で、六〇〇名の入学定員となった。

情報システム学科は、高度情報社会を実現するための情報システムにかかる様々な技術を扱う。情報コミュニケーション学科は、ネットワークを介して人と社会のコミュニケーションやソフトウェア、システムに関わる理論と応用技術を。メディア情報学科は、画像・音声・テキストのデジタルメディア情報に関する教育。知能情報学科は、知能情報技術者の育成と知能情報技術の研究開発。生命情報学科は、生命科学系の実験と情報化学系の計測や解析などを統合してバイオインフォマティクスのエキスパートの育成を目指した。

なお、情報理工学部の設置に伴いクリエーションコアを基本棟として建設した。

② 二〇〇四年に先立つ二〇〇〇年四月、理工学部数学物理学科は、長年の懸案であった学科改組を行い、数理科学科と物理科学科に改編した。また、化学科は応用化学科に、生物工学科は化学生物工学科に名称変更



した。

二〇〇一年四月には光工学科を電子光情報工学科に変更した。

BKC開設以降学科再編、名称変更等改革を連続してきた理工学部であったが、二〇〇四年四月、情報理工学部の設置とともに更に改革を実施した。

電気電子系に電子情報デザイン学科を設置、VLSI（超大規模集積回路）デザイン技量を持つ人材の養成を目指した。機械システム系にはマイクロ機械システム工学科を設置、最小の資源・最小のエネルギーで機能する新たな機械システムを創製する。建設環境系では建築都市デザイン学科を設置、新しい時代の建築都市空間を創出する能力を養成する教育を目指した。

また、一九四九年の新制理工学部設置以来の名称であった土木工学科を都市システム工学科と名称変更した。

これにより一九四九年に五学科（数学科・物理学科・化学科・電気工学科・機械工学科・土木工学科）で設置された新制理工学部は、理工学部一三学科、情報理工学部五学科となり、入学定員一部二部合計五八〇名から一、七二五名の三倍に拡充発展した。

BKCは情報理工学部設置、理工学部改革とともにBKC開学一〇周年を迎え、草津市と共催でくさつフェスティバル in BKCを開催し様々なイベントを実施した。



## 第二節 二〇〇六年度、経済学部と経営学部の改革

二〇〇六度、経済学部と経営学部は教学の国際化を目指して、これまでの経済学科、経営学科に加え、それぞれ国際経済学科（入学定員二〇〇名）、国際経営学科（入学定員一五〇名）を設置した。

国際経済学科は国際経済の理論・歴史・政策を学び国際的な経済人の育成を目指した。

国際経営学科は、国際理解を深め国際ビジネスを展開できる人材の育成を目指した。

共同の科目群も設置し、それぞれの専門分野の外国語運用能力を養成する科目も履修した。

## 第三節 二〇〇〇年代、大学院の改革

### ①理工学研究科の改革

二〇〇一年四月、理工学研究科に五年一貫制のフロンティア理工学専攻を設置した。

この専攻は科学技术分野の新しい展開を目指して入学時から学位取得を目指した革新的なものであったが、入学者の確保が難しく、二〇〇七年度に総合理工学専攻に吸収した。

また、同じ二〇〇一年九月には外国からの留学生向けに国際産業工学特別コースを設置し、授業を英語で行い、国際水準を目指したが、二〇〇六年度にはコース制を止め、特別プログラムとして再編成した。

二〇〇六年四月より前期課程を基礎理工学、創造理工学、情報理工学の三専攻にした。

### ②経営学研究科の改革

二〇〇二年四月、経営学研究科は、実践的なトップ・ビジネスマンを養成するためプロフェッショナルコー

スを設置した。このコースは二〇〇六年四月には、経営管理研究科へと改組した。

### ③テクノロジー・マネジメント研究科（MOT）

二〇〇五年四月、テクノロジー（技術）と産業イノベーション（経営）を創出する文理融合型人材を創出すべくテクノロジー・マネジメント研究科（MOT）が設置された。

### ④経営管理研究科

二〇〇二年度に開設した経営学研究科・プロフェッショナルコースを基礎に、二〇〇六年四月、独立研究科である経営管理研究科を設置した。ビジネスを発見し、創造するビジネススクール（MBA）である。

経営管理研究科は、同年九月に朱雀キャンパスが開設されると朱雀に移転した。

## 第四節 「二〇一〇年の立命館 中期計画（二〇〇七～二〇一〇年）」の策定

立命館はBK Cの開設以降、宇治高校（一九九五年）、慶祥高校（一九九六年）、守山高校（二〇〇六年）を合併しその後各中学も開校していた。高中校のほか二〇〇〇年にはAPU開設、更に二〇〇六年の小学校開設と、これまでの一大学一高校・中学から、二〇〇六年には二大学四高校・中学、一小学校を擁する学園となっていた。キャンパスも、京都・滋賀から、北海道・大分と多キャンパス化した。

そうしたこれまでの学園の発展をふまえ、二〇〇六年九月、立命館は全学の議論を踏まえて、「二〇一〇年の立命館 中期計画（二〇〇七～二〇一〇年）」を制定した。

この計画のなかで、二一世紀は生命科学の飛躍的發展が展望されるとし、ライフサイエンス系学部を設置

準備を進めるとし薬学・医学などこれまでの学園ではなかった教学分野を展開することを検討するとした。また、高度成熟社会への移行にむけて、スポーツ系の教学分野を展開することを検討するとした。

#### 第五節 二〇〇八年度、生命科学部、薬学部を設置

中期計画が策定されたのは二〇〇六年九月であったが、ライフサイエンス系学部の構想は既に検討が開始されていて、二〇〇六年五月にはこの間の教育・調査委員会や構想委員会の議論を経て、「生命科学部（仮称）・薬学部の基本構想」が答申された。

二〇〇八年四月、二年に亘る設置準備を経て生命科学部と薬学部が設置された。

生命科学部は、これまでの理工学部応用化学科・生物工学科・生命情報学科を分離し教学内容を新たに展開することとなり、更に生命医科学科を新設した。これにより四学科、入学定員二八〇名で開設となった。薬学部には六年制で入学定員一〇〇名の薬学科を設置し、生命科学部・薬学部の一體的な「融合型ライフサイエンス教育・研究」を目指した。

#### 第六節 二〇一〇年度、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科の設置

スポーツや健康分野への社会的な関心・課題を背景として、二〇〇八年五月、「スポーツ健康科学部（仮称）・スポーツ健康科学研究科（仮称）」の基本構想」が答申された。

全学での議論と準備を経て、二〇一〇年四月、スポーツ健康科学部とスポーツ健康科学研究科が開設され

た。学部と大学院の同時設置となった。

入学定員は学部二二〇名、大学院二五名であった。

スポーツ健康科学部の開設に伴い、経済学部・経営学部・理工学部の文理総合インスティテュートは募集停止となった。

## 第五章 二〇一〇年代の新たな展開―R二〇二〇前半期計画から後半期計画へ―

### 第一節 前半期の諸改革

二〇一二年度、理工学部の学科再編を行った。電子情報デザイン学科を募集停止し、電子情報工学科に名称を変更した。電気電子工学科と電子光情報工学科を統合し、電気電子工学科に再編した。

また、マイクロ機械システム工学科を募集停止し機械工学科と統合再編した。

二〇一三年度には、大連理工大学・立命館大学国際情報ソフトウェア学部を開設した。

二〇一四年度に薬学研究科を設置、翌二〇一五年度には薬学部には薬学部には薬学部を開設した。

### 第二節 二〇一五年度、経営学部の大阪いばらきキャンパスへの移転

二〇一五年四月、茨木市に大阪いばらきキャンパス（OIC）を開設し、衣笠キャンパスからの政策科学部とともに経営学部が移転した。経営学部のBKCでの展開は一七年であった。

### 第三節 二〇一八年度、食マネジメント学部の開設

二〇一八年四月、BK Cに食マネジメント学部が設置された。入学定員三二〇名である。

食マネジメント学部は、経済学・経営学を基盤にし、マネジメント、カルチャー、テクノロジーの三分野を総合的に学び、食の社会的なあり方、文化・歴史の背景、自然科学の知識を習得することを目的としている。

また、理工学部の都市システム工学科が募集停止をし、環境システム工学科を統合し環境都市工学科となった。

### 第四節 二〇一九年度現在の学部・学科、研究科・専攻

びわこ・くさつキャンパス開設から二五年、二〇一九年度現在設置されている学部・学科、研究科は以下の通りである（二〇一八年度現在既に募集停止になっている学科は除く）。

経済学部      経済学科

理工学部      数理科学科、物理科学科、電気電子工学科、電子情報工学科、機械工学科、ロボティクス

学科、環境都市工学科、建築都市デザイン学科

情報理工学部      情報理工学科

薬学部      薬学科（六年制）、創薬科学科（四年制）

生命科学部      応用化学科、生物工学科、生命情報学科、生命医科学科

スポーツ健康科学部      スポーツ健康科学科  
 食マネジメント学部      食マネジメント学科

大学院      前期課程      経済学研究科      経済学専攻

理工学研究科      基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻、環境都  
 市専攻

スポーツ健康科学研究科      スポーツ健康科学専攻

情報理工学研究科      情報理工学専攻

生命科学研究所      生命科学専攻

後期課程      経済学研究科      経済学専攻

理工学研究科      基礎理工学専攻、電子システム専攻、機械システム専攻、環境都

市専攻

スポーツ健康科学研究科      スポーツ健康科学専攻

情報理工学研究科      情報理工学専攻

生命科学研究所      生命科学専攻

博士課程（四年制）      薬学研究科      薬学専攻



BKC 空撮 (2017 年)





## 第六章 クラブ活動の変遷

大学の二拠点化により、学生のクラブ・サークル活動もBKCを拠点とする団体が生まれ、また衣笠キャンパスから拠点を移すクラブ・サークルもあった。

ここでは開設時以降、BKCを拠点にした公認のクラブ・サークルを紹介する。

### 第一節 開設時、一九九四年から

一九九四年、開設時は理工学部のみ、理工系のクラブがBKCを活動拠点とした。内燃機関研究会、ライフサイエンス研究会、音響工学研究会、核物理研究会、物性物理研究会、数学研究会および理工E.S.S.である。

体育会としてはアメリカンフットボール部が拠点をBKCに移し、男子バスケットボール部は九七年度までは両キャンパスを拠点とした。

アメリカンフットボール部はこの年、甲子園ボウルで優勝を飾った。

### 第二節 経済学部・経営学部の新展開、一九九八年から

一九九八年、経済学部と経営学部がBKCに新展開すると、クラブ活動も経済・経営系のクラブが拠点を設けた。

日本経済研究会、民科経済研究会、経済科学研究会、経済学研究会、金融研究会、会計学研究会、証券研

究会、経営学研究会である。

体育会系は、ラグビー部、男子陸上競技部、女子陸上競技部が拠点を移した。

拠点は移っても衣笠キャンパスの学部所属の学生もあり、学生の活動の高度化・一体化を図り、また移動の安全を確保するため一九九八年度から衣笠・BKK間のシャトルバスを運行した。

### 第三節 新世紀、二〇〇一年以降

二〇〇一年には体育会のアイスホッケー部、硬式庭球部、ソフトテニス部が、二〇〇三年からラクロス部、レスリング部が加わった。二〇〇八年からスケート部もBKKを拠点にしている。

二〇〇五年四月には、正課と課外自主活動を通じた学びの施設、セントラルアークを開設した。学生の活動施設としてはほかに、リンクスクエア、アクト $\alpha$ 、アクト $\beta$ 、アクト $\mu$ などがある。

### 第四節 二〇一九年度現在のBKKにおけるクラブ・サークル活動

衣笠、BKK、OICと多キャンパス化した現在、学術部・学芸総部公認団体、体育会公認団体でBKKを拠点とするクラブ・サークルは以下の通りである。

民科経済研究会、経済科学研究会、経済学研究会、音響工学研究会、物理科学研究会、立命館コンピュータクラブ、ライフサイエンス研究会、アイスホッケー部、アメリカンフットボール部、カヌー部、航空部、硬式庭球部、水泳部、スキー部、スケート部、ソフトテニス部、男子バスケットボール部、ボート部、ヨット

部、ラグビー部、ラクロス部、男子陸上競技部、女子陸上競技部、レスリング部である。

また、BKCを含めた複数のキャンパスに拠点をもつクラブ・サークルは、鉄道研究会、写真研究会、探検部、E. S. S. (英語研究会)、混声合唱団メイックス、メンネルコール(男声合唱団)、写真部、新演劇研究会劇団月光斜、モダンジャズバレエ部、茶道研究会、将棋研究会、囲碁研究部である。『立命館大学大  
学案内二〇一九』

中央事業団体の立命館大学新聞社はBKC・衣笠両キャンパスに、立命館大学放送局は三キャンパスに拠点をもち、同好会・任意団体・プロジェクト団体にもBKCを拠点として活動している学生団体があり、課外自主活動が盛んに行われている。

## 第七章 二〇一〇年代後期の地域連携

開設前後の地域との連携・交流についてはこれまでに触れてきたが、BKCは現在に至るまで様々な連携・交流を進めてきた。

一九九四年四月に理工学部開設、一九九八年に経済学部・経営学部が新展開を進めるとBKCの学生数は草津市の人口の一割以上を占めることとなった。また滋賀県の大学の学生数の半数を占めるに至っている。

二〇〇四年一月には草津市制五〇周年とBKC開設一〇周年を記念し包括協定を締結、BKCコアステーションに草津市立命館駐在事務所を開設した。

草津市とは二〇〇九年に「草津市と立命館大学の新たな教育研究連携に関わる覚書」「草津市と立命館大学

とのサービスラーニングに関する協定書」を締結、また二〇一一年にスポーツ健康科学部が設置されたことにより「草津市スポーツ振興計画」を共同研究により取りまとめた。

協定にもとづき産業振興や教育・文化・スポーツの振興発展、人材育成、まちづくりなど学生・教職員と地域との連携・協力が進んでいる。

こうした地域連携事業は草津市をはじめ、滋賀県および県内の市町村に及んでいる。最近の具体的な事例を、BKC地域連携課の『立命館大学びわこ・くさつキャンパス地域連携事例集』から紹介する。

## 《二〇一五年度》

### ① 「第四回健康寿命をのばそう！アワード」

父母教育後援会による一〇〇円朝食の取り組みで、厚生労働大臣最優秀賞を受賞した。

学生に朝食を摂る習慣を身につけさせ、規則正しい学生生活を送るための取り組みであるが、産学連携によるメニューの開発や、守山市のJAおうみ富士と農学連携し近江米や地元の野菜を使った地産地消を進める取り組みでもある。

### ② 「草津市機能別消防団」

二〇一五年九月、草津市役所に外国人被災者支援業務を担う外国人による「機能別消防団」が発足。団員の多くがBKCの外国人留学生となっている。助ける側として防災減災対策の活動をしている。

## 《二〇一六年度》

① 草津市と立命館大学と株式会社滋賀銀行との三者による包括連携に関する協定を締結。地域経済の活性化およびまちづくりの推進、雇用の推進および人材育成などを図った。

② 「第二四回参議院議員選挙投票促進啓発活動」

選挙権年齢が一八歳以上となったことから学生の自主ゼミ団体が草津市選挙管理委員会に期日前投票所の設置を要望、市の選挙管理委員会が「投票促進学生ボランティア」を募集し、学内での広報活動・勉強会、啓発活動などを実施した。

## 《二〇一七年度》

① 「日本初！学生主催によるSDGs体験型イベント Sustainable Week の開催」

SDGsは、国連が二〇一五年に採択した二〇三〇年までの持続可能な開発目標。立命館の二八の学生団体、約七〇〇名の学生が企画・運営に参加し、この取り組みを実践していくため「Sustainable Week」を開催した。

この取り組みには滋賀県職員の参加や企業の協賛、SDGsに関心を持つ延べ二、三〇〇名が参加した。

② 「学生団体CUESによる第四八回衆議院議員総選挙投票制度の周知活動」

前年の第二四回参議院議員選挙に引き続き、一〇月の衆議院議員選挙に際して学生団体が草津市選挙管理委員会と連携し、BKCの学生に向けた投票制度の周知とBKCでの期日前投票の案内を行った。

③ 「甲賀市と立命館大学との連携・協力に関する包括協定」を締結

これまで甲賀市とは個別の取り組みで連携してきたが、一月に連携・協力に関する包括協定を締結した。包括協定では、経済・観光の振興に関する事業、文化の振興に関する事業、地域活性化に関する事業、人材育成に関する事業、自然・環境の保全および活用に関する事業、健康づくりおよび福祉に関する事業など多分野の協定を締結した。

## 第八章 キャンパスこぼれ話あれこれ

① 木瓜<sup>ほけむら</sup>原遺跡

クインスタジアムの地下には木瓜原遺跡があります。キャンパスの造成にあたって約一三ヘクタールに及ぶ発掘調査が行われました。遺跡は白鳳時代、七世紀末から八世紀初頭の遺跡と言われ、製鉄炉や鍛冶場、須恵器などの铸造遺構が発掘されました。同時期に同じ場所で金属と土器を生産していたという大変まれな遺跡ということです。製鉄窯跡は地下展示室にしてそのまま保存し、梵鐘鑄型は切り取り保存のうえ、コアステーションで展示しています。

② 調整池と自然緑地

キャンパスには調整池が二つあります。大きなほうの調整池は一〇〇年に一度を想定した異常降雨に対応



できると想定されています。この池は実はクインスタジアムで、その機能をもっているというわけです。またもう一つの調整池は正門を入った東側、BKCスポーツ健康コモンズの東側で、面積はおよそ二ヘクタール、三〇年に一度の大雨に対応することを想定しています。

また、キャンパスには約三ヘクタールの自然緑地を残すことが決められました。古くからの湿原の一部で、ヌマガヤ群落やジュンサイ群落などの水生植物、またムカシヤンマやハッチョウトンボなどの貴重な昆虫類の保護に努めています。緑地とともに自然池も残されています。

### ③ 八左衛門池と記念碑

一九九五年一〇月、キャンパス東門南脇に「八左衛門池記念碑」が建立されました。江戸時代末期、野路の総代八左衛門は野路に農業用水を確保するため東門付近に私財を投じて周囲約二・七キロメートルの溜池八左衛門池を建設し、新田の開発を行いました。その功績を称え八左衛門は深尾の苗字を膳所藩主から授けられました。

BKCの建設により池は埋められましたが、深尾氏の子孫が立命館大学の卒業生であることから、その厚志により碑を建立することとなったものです。

なおキャンパスには、新池、木瓜池などの溜池もありました。

#### ④ 枝垂桜と桜並木

一九九三年一月、完成間近のキャンパス正門前に、造園家一六代佐野藤右衛門さんから京都円山公園の孫にあたる「一重彼岸枝垂桜」が寄贈されました。移植の際には藤右衛門さん直々の指導で植えられました。また滋賀県の校友の皆さんの寄贈により、草津川の桜並木を模してクインススタジアムの周囲に桜が植えられました。

ともに新学期を迎える季節には桜の花でキャンパスを彩ります。

#### ⑤ 幻のエレベーター

理工学部の学系棟であるウエストウイングとイーストウイングは七階建てです。それぞれエレベーターがあります、どちらも二基のエレベーターです。ところが設計図には三基のエレベーター。あと一基はどこにいったのでしょうか。実は当初三基で計画されましたが、実際には二基となりました。もう一基は今でも現在のエレベーターの隣で眠っています。見えませんが。

#### ⑥ エポック立命21の屋上に京都市電の敷石

二〇〇一年四月、「エポック立命21」が完成しました。セミナーハウス、スポーツハウス、ホールの三つの機能を備え、立命館創始一三〇年・学園創立一〇〇周年の記念事業として父母教育後援会の支援により開設されました。その屋上庭園に京都市電の敷石が使われています。市電の敷石はそもそも一九六五年、衣笠学

舎の以学館建設時に廃線跡のものを利用して敷かれました。その後OICでも使用し、ここBKCでも広小路時代から学生の通学の足となっていた市電を思いおこさせてくれます。

### ⑦ びわこ・くさつキャンパスの愛称・略称について

「びわこ・くさつキャンパス」の名称は、一九九三年一月一七日の常任理事会で正式決定しました。

このとき、併せてキャンパスの愛称として「リッツBKC」(RITS BIWAKO FRONTIER CAMPUS)も提案されましたが「リッツBKC」と決定しました。

現在愛称はリッツは付かず「BKC」で定着しています。

## 第九章 BKCに関する資料

一. 二一世紀学園構想委員会「二一世紀の立命館学園構想―二一世紀学園構想委員会答申―」一九八九年三月二九日

二. 長期計画委員会「第四次長期計画委員会 第一次答申」一九九〇年四月一日

三. 第五次長期計画委員会「第五次長期計画委員会 第一次答申」一九九五年四月二二日

四. 第五次長期計画委員会「第五次長期計画委員会 第二次答申」一九九五年九月二〇日

五. 第五次長期計画委員会「第五次長期計画委員会 第三次答申」一九九六年一月一七日

六. 常任理事会「理工学部の『びわこキャンパス』移転と学科再編・拡充について」一九九〇年七月一一

日

七、常任理事会「理工学部再編拡充の基本内容について（案）——理工学部再編拡充の基本的考え方について（その二）——」一九九二年一月二二日

八、常任理事会・大学協議会「びわこキャンパス開発の基本計画について」常任理事会一九九〇年一月一七日、大学協議会一九九〇年一月二七日

九、常任理事会「びわこキャンパス施設配置計画の策定について」一九九〇年十一月七日

一〇、常任理事会「高等教育計画の動向とびわこキャンパス一九九四年度開校の必要性」一九九〇年十一月七日

一一、理工学部拡充移転推進委員会・キャンパス建設部会「学系棟、実験棟にかかわる施設配置の確定について（案）」一九九一年一月三〇日

一二、常任理事会「第四次長期計画寄付政策——プロジェクト六〇——」一九九一年一〇月三〇日

一三、常任理事会「第五次長期計画基本要綱（案）——二一世紀のフロンランナーへ——」一九九六年度（二〇〇三年度）一九九六年四月

一四、常任理事会「衣笠キャンパスならびにBKC高度化のための学部移転等の検討のために」一九九四年一月二四日

一五、常任理事会「BKCへの学部移転の基本方向について——衣笠キャンパス・BKCの高度化、社会・人文系教学の高度化論議の集約に立って——」一九九五年四月一二日

一六・常任理事会「BKC高度化基本構想案～経済・経営両学部の新展開を中心として～」一九九六年四月一七日

一七・「二一世紀社会の期待に応えるキャンパス高度化と経済・経営両学部のBKC新展開」『学園通信』第一〇〇号付録 一九九六年四月二〇日

一八・「全学構成員の叡知と力を結集して、BKCへの学部移転と新たな学園創造を」『学園通信』第九五号付録 一九九五年五月二〇日

一九・BKC基本構想検討委員会「BKC施設設備の基本的考え方について（第三次案）」一九九五年一二月二二日

二〇・常任理事会サマリーレビュー「BKC外国語教育・学習システム改革基本要綱案」一九九六年九月一七日

二一・常任理事会「衣笠・BKC複数キャンパスにともなう学園管理運営の基本方向」一九九七年一月八日

二二・常任理事会「衣笠・BKC二大キャンパス下での教学の高度化を支えるBKCキャンパスの運営について 総長・学長を補佐するBKC担当副学長の設置、BKC調整会議の設置等について」

一九九七年九月二四日

二三・常任理事会「BKC事務体制の実施」一九九七年七月一六日

二四・大学院構想具体化委員会・常任理事会「二一世紀を展望した大学院改革の全体像と基本構想につ

いて、大学院構想具体化委員会 答申」委員会一九九八年九月。常任理事会一九九八年一〇月七日

二五、常任理事会「大学院新展開の基本方向とフレームワークについて」一九九九年四月七日

二六、常任理事会「大学院新展開の基本構想と今後の課題について」一九九九年九月一四日

二七、常任理事会「BKC社系研究機構設置案」一九九七年一月二六日

二八、常任理事会・大学協議会「総合理工学研究機構の設立について」常任理事会一九九三年四月一四日、大学協議会一九九三年四月二三日

二九、臨時部次長会議「びわこ・くさつキャンパス（仮称）事務体制・業務計画について（まとめ）」

一九九三年三月七日

三〇、常任理事会／スプリングレビュー「BKC事務体制について（案）」一九九七年四月二六日

三一、常任理事会「経済学部国際経済学科・経営学部国際経営学科の設置について」BKCにおける国際化の飛躍的前進のために」二〇〇五年二月二三日

三二、常任理事会「情報理工学部の設置構想案―第三次答申（中間報告）―」二〇〇三年四月一六日

三三、常任理事会「立命館大学大学院理工学研究科 フロンティア理工学専攻の設置趣意書（案）」

二〇〇〇年二月二四日

三四、常任理事会「立命館大学理工学研究科 博士前期課程 国際産業工学特別コース設置（案）」

二〇〇〇年一月一五日

三五・常任理事会「技術経営（MOT）大学院（仮称）設置の基本構想―技術経営（MOT）大学院（仮称）構想検討委員会答申（案）―」二〇〇三年九月一〇日

三六・常任理事会「経営管理研究科（仮称）設置構想の修正・補強案について」二〇〇四年九月八日

三七・常任理事会「生命科学部（仮称）・薬学部の基本構想（案）―ライフサイエンス系学部構想委員会答申―」二〇〇六年五月三十一日

三八・常任理事会「二〇一〇年の立命館 中期計画（二〇〇七―二〇一〇年）」の策定について」二〇〇六年九月二七日

三九・常任理事会「スポーツ健康科学部（仮称）・スポーツ健康科学研究科（仮称）の基本構想―健康・スポーツ系学部・研究科具体化検討委員会答申―」二〇〇八年五月一四日

数字で見えるBKCの変遷（学生数・校地面積・建物延床面積）

2019.12.3  
m<sup>2</sup>

人

| 年度   | 学部学生           | 大学院学生       | 夜間主       | 留学生 | 合計     | 備考          | 校地面積       | 建物延床面積     |
|------|----------------|-------------|-----------|-----|--------|-------------|------------|------------|
| 1994 | 4,096 (460)    | 515 (19)    |           | 26  | 4,637  | 理工学部移転      | 572,454.32 | 86,847.09  |
| 1995 | 4,542 (627)    | 690 (24)    |           | 27  | 5,259  |             | 〃          | 85,616.52  |
| 1996 | 4,794 (772)    | 756 (37)    |           | 32  | 5,582  |             | 572,446.32 | 87,489.39  |
| 1997 | 5,352 (894)    | 716 (41)    |           | 45  | 6,113  |             | 〃          | 88,026.80  |
| 1998 | 12,763 (3,024) | 997 (78)    |           | 181 | 13,941 | 経済・経営新展開    | 〃          | 144,854.81 |
| 1999 | 13,385 (3,171) | 1,120 (101) | 719 (99)  | 211 | 15,435 |             | 611,024.32 | 148,031.47 |
| 2000 | 13,668 (3,201) | 1,154 (110) | 641 (114) | 214 | 15,677 |             | 〃          | 154,380.94 |
| 2001 | 14,232 (3,200) | 1,295 (148) |           | 242 | 15,769 |             | 〃          | 154,601.46 |
| 2002 | 14,167 (3,117) | 1,331 (167) |           | 285 | 15,783 |             | 〃          | 162,058.48 |
| 2003 | 14,175 (3,006) | 1,381 (167) |           | 338 | 15,894 |             | 〃          | 170,750.23 |
| 2004 | 14,486 (2,972) | 1,422 (162) |           | 383 | 16,291 | 情報理工学部      | 〃          | 193,009.99 |
| 2005 | 14,614 (2,916) | 1,532 (187) |           | 409 | 16,555 | MOT         | 〃          | 203,130.31 |
| 2006 | 15,361 (3,089) | 1,724 (211) |           | 463 | 17,548 |             | 〃          | 203,613.36 |
| 2007 | 15,527 (3,109) | 1,594 (185) |           | 501 | 17,622 |             | 〃          | 204,688.02 |
| 2008 | 15,919 (3,256) | 1,523 (203) |           | 548 | 17,990 | 生命科学・薬学部    | 611,078.32 | 213,448.58 |
| 2009 | 15,970 (3,417) | 1,679 (239) |           | 615 | 18,264 |             | 〃          | 213,550.55 |
| 2010 | 15,966 (3,495) | 1,838 (254) |           | 626 | 18,430 | スポーツ健康科学部   | 〃          | 225,801.86 |
| 2011 | 16,100 (3,645) | 1,973 (254) |           | 631 | 18,704 |             | 656,668.32 | 228,391.91 |
| 2012 | 15,877 (3,670) | 1,841 (251) |           | 599 | 18,317 |             | 662,702.32 | 229,032.26 |
| 2013 | 15,751 (3,755) | 1,715 (239) |           | 564 | 18,030 |             | 〃          | 231,714.96 |
| 2014 | 15,861 (3,844) | 1,718 (256) |           | 621 | 18,200 |             | 〃          | 231,824.64 |
| 2015 | 12,088 (2,660) | 1,508 (220) |           | 385 | 13,981 | 経営・MOT 茨木移転 | 〃          | 248,305.21 |
| 2016 | 12,231 (2,697) | 1,586 (256) |           | 466 | 14,283 |             | 675,111.88 | 252,751.87 |
| 2017 | 12,602 (2,836) | 1,549 (269) |           | 630 | 14,781 |             | 〃          | 257,330.91 |
| 2018 | 12,679 (3,064) | 1,702 (275) |           | 794 | 15,175 | 食マネジメント学部   | 〃          | 257,358.76 |
| 2019 | 12,896 (3,258) | 1,858 (311) |           | 928 | 15,682 |             | 〃          | 〃          |

典拠：「クロスローズ」、「データで見える立命館」による

（注1）学生数の（ ）は女子学生で内数

（注2）校地・建物とも2011年度よりグリーンワールドを含む